アルコール体質を調べてみませんか？

2つのアルコール代謝関連酵素の遺伝子タイプを調べる検査です。
アルコールによる疾患のリスクが高いか低いかがわかります。

アルコール体質検査とは

アルコールを分解する代謝酵素の働きには個人差があり、その強弱は遺伝子の一部の違いにより決められます。

簡単な液による遺伝子検査により、アルコールに対する代謝の能力がわかるもので、

A 翌日お酒が残りやすく、アルコール依存症に最もなりやすいタイプ
B お酒好きになりやすいタイプ
C お酒に弱いのに顔に出にくく、飲酒で食道がんに最もなりやすいタイプ
D お酒に弱くすぐに顔が赤くなるタイプ
E お酒が全く飲めないタイプ

の５つに分けられます。

国立病院機構 久里浜医療センター 横山顕 臨床研究部長 監修

アルコール体質に関する遺伝子検査をすることで、自らの体質的な特徴を理解し、アルコール関連の疾患（アルコール依存症や、急性アルコール中毒、咽頭がんや食道がん、肝臓疾患）への危険性を認識し、適度な飲酒を心がけることで疾病予防に貢献します。

アルコールはどのように分解されるのか？

体内に入ったアルコールは…

胃や小腸で吸収されたアルコールは肝臓へ送られ…

疾病との関連も…

まず肝臓でアルコール脱水素酵素（ADH1B）の作用によってアセトアルデヒドに分解されます。

アセトアルデヒドはアルデヒド脱水素酵素（ALDH2）の作用で酢酸に分解（代謝）されます。

血液によって全身をめぐり、筋肉や脂肪組織などで水と二酸化炭素に分解されて体外に排出されます。

肝ミクロゾーム酸化系 CYP2E1

アルコール → アルデヒド（不快な成分） → 酢酸 → 水 / 二酸化炭素 → 体外へ排出

アルコール脱水素酵素 ADH1B

アルデヒド脱水素酵素 ALDH2

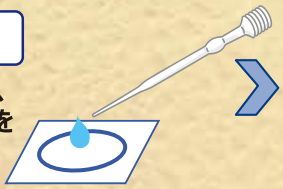
アセトアルデヒドには強い発がん性があり、咽頭がんや食道がんの原因になることが世界保健機関（WHO）によって認定されています。

どのような検査をおこなうのか？

採取、取扱いが簡単

① 採 取
口腔内のだ液をスポイトを用い採取します。

② 滴 下
検査用ろ紙に、２、３滴だ液を滴下します。



③ 乾 燥
検査用ろ紙を自然乾燥させ、指定の袋に入れて提出いただきます。

このような方に

健康に飲酒を楽しみたい

◆酒量の多い方が、咽頭がんや食道がんのリスクについて考えるきっかけ作りに
◆Cタイプで飲酒家の方は、年に一度の内視鏡検査をお勧めします

アルコール体質を知りたい

◆新成人・新社会人になり飲酒の機会が増える方に
◆練習してもなかなか飲めるようにならない方に
◆車の運転や機械操作のお仕事をされている方に

※ご希望の方は、診察時に医師へお伝え下さい。3,000円+消費税
検査結果に、体質に関する説明が記載されていますが、医師の説明を希望される方は診察時にお伝え下さい。

株式会社NSD